

〈名古屋支部〉  
「あいち学生支援コンソーシアム」  
の活動について

外国人留学生の就職支援を今年度の活動の柱に

「あいち学生支援コンソーシアム」は、日本学生支援機構と連携して愛知県内の学生を支援することを目的とし、六月二日に名古屋大学で設立総会を開いて発足した。県内の四年制国公立全四九大学と愛知県、名古屋市、愛知県経営者協会などが加盟し、平成一六年度事業計画として学生の悩み相談や就職支援などを掲げている。

後日、具体の一六年度事業を策定するためため運営委員会が開催され、国内で就職を望む外国人留学生への支援を今年度事業の柱として進めていくことが承認された。これは、同コンソーシアム創設準備委員会において、外国人留学生の就職に関し外国人留学生、企業双方のニーズは大きいものの、双方とも情報が不足しているとの意見があったことや、設立総会終了後に開かれた日本学生支援機構とコンソーシアム運営委員会等との懇談会席上、愛知県経営者協会からコンソーシアムと協力して外国人留学生の

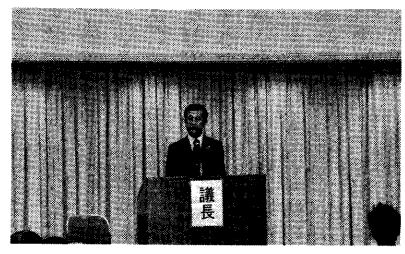
就職支援を実施したいとの発言があったことなどを踏まえ決定されたものである。

外国人留学生向け就職に関するアンケート用紙を三八大学に送る

この事業を実施するにあたり、手始めに外国人留学生の就職希望等の実態を把握するため、会員大学の協力のもと外国人留学生にアンケートを実施することとし、九月一日に対象となる外国人留学生が学ぶ三八大学へアンケート用紙を送付した。対象となる外国人留学生は、県内大学に在籍する学部三・四年生と博士課程前期一・二年生二、二七一人で、調査は一〇月一五日までの期間実施した。この種のアンケートについては、わが国において先例があまりないと思われるので、先導的役割を果たすことが期待される。

調査票は、運営委員会の委員大学、愛知県経営者協会、日本学生支援機構名古屋支部が専門家の意見を聴

総設立コンソーシアム学生支援



きつつ協力して作成したもので、今後同種のアンケートが行われる際、参考とし得るべき要素となっている。この調査票には、外国人留学生のため和文に英文が対照されている。名古屋大学関係者のご好意で、ネイティブの方にこの英文をチェックしてもらったが、その下訳は名古屋支部職員が行ったものである。

事前に外国人留学生数実態調査を行い、在籍状況を把握

アンケートを実施するにあたって、事前に、外国人留学生の在籍状況等の基礎資料を得ることを目的とし、七月に県内四九大学を対象に外国人留学生数実態調査を行った。その結果わかったことは、県内には五、三九七人の外国人留学生が学び、そのうち二、二七一人が学部三・四年生と博士課程前期一・二年生で、当面のコンソーシアム就職支援事業の対象となっているということであった。この資料をもとに外国人留学生向けアンケート調査を企画・立案し、実施した。

企業向け外国人留学生雇用ニーズに関するアンケートを実施

外国人留学生向けアンケートと対をなすものとして、企業に対しアンケートを行うものである。企業の意向の把握

とともに、外国人留学生採用に対する企業ニーズの掘り起こしをねらい、県内企業五、〇〇〇社程度を対象に、一月に実施した。

二月四日、外国人留学生就職支援ガイダンスを開催

外国人留学生向けアンケートの結果を踏まえ、二月四日（土曜日）名古屋大学シンポジオンホールで、県内大学に学ぶ外国人留学生を対象とした就職支援ガイダンスを開催する。このガイダンスは、今年度の外国人留学生就職支援事業のハイライトをなすものであり、日本国内の外国人の就職相談・日系企業の海外法人の現地化施策についての講演や、日本で就職した外国人留学生・外国人留学生採用実績企業などの事例報告を盛り込んだパネル・ディスカッションを行う。

今後の活動について

今後、外国人留学生就職支援事業を拡充するとともに、学識経験者で構成される専門委員会を設け、県内四九大学を対象とする学生相談実態調査の実施や大学向け事例集・手引書の作成を行うなど、学生の悩み相談事業の積極的な展開を図り、これらの分野における先導的な役割を果たしたい。

〈札幌支部〉  
札幌は今

今宮 清一

独立行政法人日本学生支援機構が発足してから早くも六か月が過ぎました。機構所管の仕事は統合された各法人・団体の仕事を継承したものが多く、それなりに手馴れた仕事でもあるのでスムーズに回転するだろうと考えていましたが、やはり新しい組織での新しい仕事ということにもなるので当初は若干のとまどいや混乱も見られました。しかしここに来て少しずつ歯車が大きくゆっくりと動き始めたようです。

札幌支部も北海道大学から二名、北海道教育大学から一名、旧内外学生センターから二名の新しいメンバーでなんとか円滑に仕事をこなせるようになりました。札幌支部の仕事の大きな柱に札幌国際交流会館の運営ということがあります。この会館は一一階建てで一〇〇部屋、夫婦で入居できる世帯用が二〇部屋、あとは単身用が八〇部屋です。九月末現在で入居率が八五パーセントになっています。ということとは、一五部屋が空いているということになり

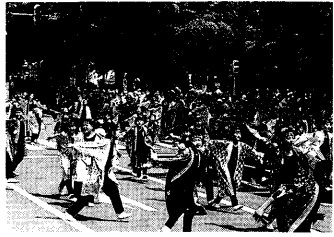
ます。なんとか留学生に入居してもらい、空き部屋を無くして入居率を一〇〇パーセントに近づけるのが目標です。仕事以外では、この六か月間で印象的な出来事がいくつもありました。北海道一の大きなニュースといえばなんといっても駒大苫小牧高が甲子園で優勝したことでしょう。私も含めて北海道民の誰一人として優勝を予想した人はいなかったでしょう。その分その喜びと熱狂は桁外れに大きいものがありました。駒大苫小牧のナインは高橋北海道知事から二メートル四方もあるうかという文字通りでっかい道民栄誉賞を与えられ新聞紙上を賑わしました。駒大苫小牧のキャンパスには、何万人もの人々が真紅の大優勝旗を見に訪れたそうです。

もう一つのニュースは、先だつての台風一八号です。この台風はものすごい強風を伴って道内各地に甚大な被害をもたらしました。

街路樹がいたるところでなぎ倒されて、あちこちで折れた木を撤去したあとの切株が目立ちます。観光名所として馴染みの深い北海道大学のポプラ並木も五一本中一九本があまりの強風にふき倒されて無残な姿になりました。北海道大学ではポプラだけではなく一〇〇年以上たった大きな木があちこちで倒れていてぽっかりと胸に穴があいたような気分になりました。しかし現在ポプラは専門家のアドバ

イスのもとに一本一本クレーンで吊り上げられて、元の並木に復元されつつあります。また以前のように市民や観光客、なにより学生に愛されるポプラ並木になることでしょう。

私自身のことを言えば、日本学生支援機構の発足と同時に東京の旧内外学生センターから札幌支部に配属されました。そういう訳で四月以降見るもの聞くもの何でも物珍しく、好奇心の塊となつてあちこちふらついておりますが、この夏一番面白かつたというか興奮したというか感動したお祭りがありました。



今年で二三回目を迎えた「YOSAKOI SORAN祭り」です。このお祭りを抜きにして北海道の祭りは語れないでしょう。よさこいの言葉にあるように、この祭りが生まれたいっしょに、北海道の一人の学生が高知県に旅をして、よさこい祭りを見て感動し、こういふすばらしい祭りを北海道でもやりたいと考えて、友達を誘い、市民を動員し、行政を動かして今日の大きなお祭りにしたのだそうです。よさこい節やソーラン節をアレンジしたりリズムのつって一チーム四〇

人から一五〇人の踊り手たちが、躍動感のある自由な振り付けで踊りながら、鳴子を両手で鳴らしながら、スピーカーで曲を流して先導する地方車と呼ばれるトラックを先頭に町を流します。

もう一つは大通公園の中に設営された一五〇人がいっぺんに踊れる大ステージで、演舞を披露するものがあります。これはコンテストのようなもので、審査員が、踊り・衣装・チームの活気など様々な角度から採点し優勝チームを決めるのです。優勝したチームは海外遠征などのご褒美もあり、見るほうも踊手もたいそう盛り上がりつておりました。熱い五日間のYOSAKOI SORANの



余韻に浸りながら二〇〇万人以上の観客を集め四万五、〇〇〇人が参加するお祭りも一学生の発想で膨らんでいったように、我々の仕事は学生生活をサポートする地道な仕事ではあるけれど、将来国を背負って立つ気概を持つ社会人を育てる、国と国との垣根を取り払うような真の国際人になつてもらおう手助けプロジェクトが札幌支部を中心に盛り上がりつつ、日々の業務に取り組んでいます。